

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

## 事業名 針広混交林化施業技術開発モデル事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 整備係 電話番号：058-272-1111（内4385）

E-mail : c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 63,262 千円 (前年度予算額： 0 千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	63,262	0	0	0	0	0	63,262	0	0
決定額									

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨（現状と課題）

林業不適地における針葉樹人工林については、これまで公益的機能の向上を目的とした間伐を支援してきたところ。生物多様性をめぐる社会的要請が高まる中、今後、多様な森林づくりを進めるためには、針広混交林等へ誘導していく必要がある。そのため、本県の諸条件に適した針広混交林化に関する施業技術を確立する必要がある。

## (2) 事業内容

早期の針広混交林化を目的として、針葉樹人工林を列状、群状など様々な手法で強度伐採するとともに、シカ対策を講じた上で天然更新や植栽により広葉樹を導入（次年度以降）するモデル事業を実施。伐採後5～10年で針広混交林化の目途を得、30年後に針広混交林できる技術体系の確立を目指す。

### (3) 県負担・補助率の考え方

県10/10 県が針広混交林化に関する施業技術を確立するために実施するものため。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	875	アドバイザー、外部講師への謝金
旅費	618	現地調査、先進地調査等の旅費
需用費等	993	調査用資機材費等
委託料	20,175	森林等の調査、測量、設計に係る委託料
工事請負費	40,601	森林整備に係る工事費
合計	63,262	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画

(1) 災害に強い循環型の森林づくり

(イ) 100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり

### (2) 国・他県の状況

国：育成複層林への誘導方法に関する評価委託事業を実施（R6～）

他県：当時の知見をとりまとめた指針等を作成（H16岡山県、H17長野県、H27山梨県、R7鹿児島県）

### (3) 後年度の財政負担

継続的に必要

R8年度に伐採する箇所について、次年度以降に広葉樹導入等を予定

技術体系の確立のために、継続的な調査が必要

### (4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体：県

2) 妥当性：県が針広混交林化に関する施業技術を確立するために実施するものため妥当。

# 事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 繼続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

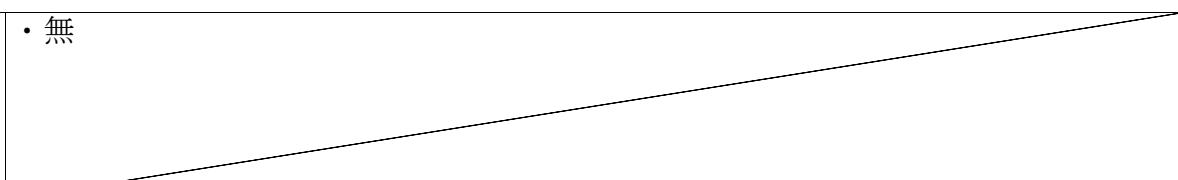
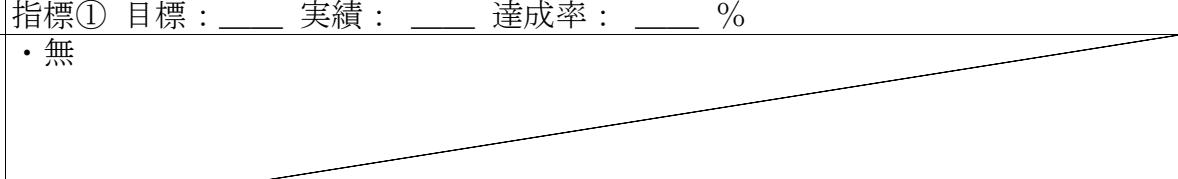
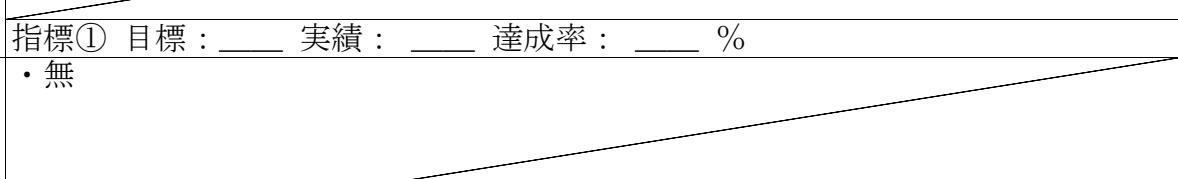
針葉樹人工林の強度伐採後5～10年で針広混交林化の目途を得、30年後に針広混交林できる施業技術体系（暫定版）を令和12年度までに作成し、令和17年度までに暫定版を改訂する。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
①モデル事業箇所数	0	-	-	2	5	-

### ○指標を設定することができない場合の理由

### (これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	・無	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %	
令和 5 年 度	・無	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %	
令和 6 年 度	・無	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %	

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

#### ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」(R6.3林野庁)がR7.3に改定される等、生物多様性を高める森林整備への社会的要請は高まっている。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている
(評価) 2	外部の有識者からの助言や市町村の協力も得ながら、事業効果が早期に發揮できるよう実施方法等を検討している。

### (今後の課題)

#### ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

未確立の技術的課題に取り組む事業であるため、実証の中で事業当初に想定しえなかつた課題が発生するおそれがある。

### (次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか  
植栽は適期が限られるため、伐採の次年度以降に実施する必要がある。また、事業地を維持管理しつつ、調査する必要があるため、継続すべき事業である。

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	